■ハンドマイク演説参考例（岸田首相所信表明演説）　　２０２１年10月９日　埼玉県委員会

ご町内のみなさん、日本共産党です。ただ今より、この場をお借りしまして日本共産党の政策を訴えさせていただきます。ご協力よろしくお願い致します。

# ●みなさん、「国民の声」を聞くことが売り物の岸田文雄首相の就任後初の所信表明演説は、その言葉とは程遠いものでした。「新しい時代」を開くと強調しましたが、国民の不信を招いた安倍晋三・菅義偉両政権のどこが間違っていたのか、一切触れませんでした。むしろ、「新しい資本主義」を目指すなどとごまかして、破綻した「安倍・菅政治」を、いっそう推進する姿勢を示しました。いくら表紙が替わっても、政治の中身は変わりません。新しい政治を実現するには政権交代しかありません。

# みなさん、「桜を見る会」前夜祭の費用や、河井克行元法務大臣・案里(あんり)元参院議員夫妻の大規模買収事件での自民党本部からの１億５千万円もの資金提供、甘利明自民党幹事長の口利き・金銭授受など、国民が疑問に思っている多くのことに、首相はことごとくだんまりを押し通しました。学問の自由を踏みにじった日本学術会議への人事介入についても沈黙しています。そうした問題に背を向け、いくら「国民の声を真摯（しんし）に受け止め」とか、「信頼と共感を得られる政治」と繰り返しても、なにも響きません。これが「国民の声」を聞く姿勢でしょうか。

●みなさん、岸田文雄首相はコロナ対策について、感染爆発を招いた自公政権の対応のどこに問題があったのか、自ら与党幹部として無為無策を続けたことに反省はありません。医療・検査体制の抜本的拡充や暮らしの支援強化にも具体的な裏付けを示しませんでした。「新しい資本主義の実現」といって、経済運営の基本にあげたのは、安倍政権の「３本の矢」でした。「成長と分配の好循環」は、安倍氏の常とう句です。格差と貧困を拡大した「アベノミクス」を継承・推進する立場は明白です。被爆地・広島出身の首相として、「核兵器のない世界」を目指すと口にしても、核兵器禁止条約の署名・批准を拒否していることとは相いれないではありませんか。唯一の戦争被爆国の国民の悲願に逆行するものです。

　安倍元首相が執念を燃やした改憲問題では、国会の憲法審査会で「建設的な議論を行い、国民的な議論を積極的に深めていただくことを期待する」といいました。首相の憲法を守り尊重する義務も三権分立の原則も投げ捨てたやり方は、「安倍・菅政治」そのものではないでしょうか。そのことは、岸田政権発足後の世論調査にもしめされています。安倍・菅政権の路線を「引き継がないほうがよい」と答えた人が、朝日新聞では５５％、「安倍・菅政治から転換すべきだ」が、共同通信では６９・７％にものぼっています。

　岸田首相に政権担当の資格はありません。市民と野党が力を合わせ、総選挙で政権交代を実現し、国民の声が届く政治に切り替えようないでしょうか。

最後に、比例で日本共産党へのご支援をお願いしまして、訴えを終わらせていただきます。ありがとうございました。